

各関係機関長 殿
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和元年度農作物病害虫発生予察情報について

令和元年度農作物病害虫発生予報第3号を発表したので送付します。

令和元年度農作物病害虫発生予報第3号

令和元年年5月31日
徳島県

I. 普通作物

早期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや遅い(前年並)
発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率 0.5%, 発病度 0.0)。なお, 補植用置き苗でも発生を認めていない(過去10年間の発生圃場率:平成21~23年は未確認, 平成24年は9.1%, 平成25~30年は未確認)。
- (2) 高松地方気象台が5月30日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並で, 日照時間は平年並か多く, 期間の前半は気温がかなり高くなり, 期間のはじめは少雨の状態が続く所があると予想されており, 発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植用置き苗は, 葉いもちの発生源になるので, 補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め, 発生を認めたら直ちに液剤による防除を行う。また, 常発田では粒剤を予防散布する。

普通期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや遅い(前年並)
発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率 1.4%, 発病度 0.1)。なお, 補植用置き苗でも発生を認めていない(過去10年間の発生圃場率:平成21年は未確認, 平成22年は5.3%, 平成23年は未確認, 平成24年は14.3%, 平成25~28年は未確認, 平成29年は22.2%, 平成30年は未確認)。
- (2) 高松地方気象台が5月30日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並で, 日照時間は平年並か多く, 期間の前半は気温がかなり高くなり, 期間のはじめは少雨の状態が続く所があると予想されており, 発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生を認めたら直ちに液剤による防除を行う。また、常発田では粒剤を予防散布する。

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月6半旬の巡回調査では、発生圃場率が36.4%と、平年(15.2%)に比べてやや高いが、25株当たり成虫数は1.4頭と、平年(0.7頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が5月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多く、期間の前半は気温がかなり高くなり、期間のはじめは少雨の状態が続く所があると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し、殺虫剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤を水面施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が発生しやすいので、深水を避け、根を健全に保つ。

サツマイモ

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月6半旬の巡回調査では、発生圃場率が8.3%、寄生株率が0.3%と、平年(68.9%、21.4%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が5月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多く、期間の前半は気温がかなり高くなり、期間のはじめは少雨の状態が続く所があると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

イモキバガ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が12.6%、被害葉率が0.7%)。
- (2) 高松地方気象台が5月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多く、期間の前半は気温がかなり高くなり、期間のはじめは少雨の状態が続く所があると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期に、薬剤を散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月6半旬の巡回調査では、発生圃場率が83.3%と、平年(32.4%)に比べて高いが、寄生葉率は4.5%と、平年(2.9%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が5月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多く、期間の前半は気温がかなり高くなり、期間のはじめは少雨の状態が続く所があると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。防除の際には、十分な量の薬液を散布する。

II. 果樹

カンキツ

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場(勝浦町)での第1世代幼虫の初発生は5月14日に確認された(平年:5月17日,前年:5月10日)。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤による防除適期は、有機リン剤の場合、35~40日後(6月18日~6月23日)である。

(2) スダチでは、有機リン剤による防除は行わない。

果樹共通

果樹カメムシ類 (5月29日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い),発生程度は「多」

2) 予報の根拠

(1) 予察灯における5月第3~5半旬の果樹カメムシ類の誘殺数

勝浦町では、ツヤアオカメムシが425頭と、平年(271.4頭)の約1.6倍誘殺され、チャバネアオカメムシが408頭と、平年(69.7頭)の約5.9倍、前年(35頭)の約12.1倍誘殺された(表1)。

上板町では、ツヤアオカメムシが140頭と、平年(110.2頭)の約1.3倍誘殺され、チャバネアオカメムシが32頭と、平年(41.0頭)と同程度誘殺された(表2)。

(2) フェロモントラップにおける5月第3~5半旬のチャバネアオカメムシ誘殺数

石井町における調査では163頭と、平年(78.6頭)の約2.1倍、前年(26頭)の約6.3倍誘殺された(表3)。

(3) チャバネアオカメムシの越冬密度

2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では、9地点で越冬を確認、越冬成虫は7.0頭/m²であり、平年(1.6頭/m²)に比べて高く、前年(成虫確認地点数は8地点、越冬成虫数は0.9頭/m²)に比べて約4.4倍高い越冬密度であった。

(4) 5月下旬、現地圃場(徳島市,勝浦町)のカンキツ、ビワ等で果樹カメムシ類の寄生を確認している。

(5) 高松地方気象台が5月30日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多く、期間の前半は気温がかなり高くなり、期間のはじめは少雨の状態が続く所があると予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の山林や雑木林から成虫が飛来してくるので、園内を巡回し、飛来を確認したら早急に防除を行う。

(2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。

(3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

表1 勝浦町での予察灯による果樹カメムシ類誘殺数

月・半旬	ツヤアオカメムシ			チャバネアオカメムシ		
	2019年	2018年	平年	2019年	2018年	平年
4・1	0	2	0.3	0	0	0.1
4・2	0	0	0	0	0	0
4・3	0	3	0.3	0	0	0
4・4	0	0	0.8	0	0	0.8
4・5	30	15	2.5	4	4	0.7
4・6	2	20	7.9	0	11	7.2
5・1	50	117	47.3	7	30	30.4
5・2	19	75	60.3	9	14	14.7
5・3	130	74	72.4	91	7	14.9
5・4	144	424	152.0	124	22	30.5
5・5	151	40	47.0	193	6	24.3
5・6		105	77.0		38	23.9

表2 上板町での予察灯による果樹カメムシ類誘殺数

月・半旬	ツヤアオカメムシ			チャバネアオカメムシ		
	2019年	2018年	平年	2019年	2018年	平年
4・1	0	0	0	0	0	0
4・2	0	0	0	0	0	0.1
4・3	0	0	0.1	0	0	0
4・4	0	2	0.6	0	1	0.5
4・5	21	25	4.2	25	1	0.7
4・6	1	4	9.2	1	0	1.8
5・1	15	73	27.4	15	10	6.4
5・2	3	11	29.3	2	3	11.4
5・3	32	30	43.9	15	10	19.2
5・4	87	40	36.6	6	16	12.6
5・5	21	25	29.7	11	15	9.2
5・6		41	38.8		11	13.2

表3 石井町でのフェロモントラップによるチャバネアオカメムシ誘殺数

月・半旬	2019年	2018年	平年
4・1	0	3	0.4
4・2	0	2	0.5
4・3	0	3	0.8
4・4	1	6	2.7
4・5	24	2	1.5
4・6	3	2	3.6
5・1	63	8	16.5
5・2	8	2	25.3
5・3	57	6	30.0
5・4	64	1	23.1
5・5	42	5	25.5
5・6		1	27.9

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年並～やや少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が22.2%と, 平年(24.2%)並の発生であるが, 発病株率は0.7%と, 平年(6.1%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が5月30日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並で, 日照時間は平年並か多く, 期間の前半は気温がかなり高くなり, 期間のはじめは少雨の状態が続く所があると予想されており, 発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が17～23℃の時胞子飛散量が増加し蔓延が増加する。
- (2) 多発してからでは防除効果が劣るので, 予防散布や発生初期の防除に重点をおく。ネギには薬液が付着しにくいので, 展着剤を加え, 薬剤が確実に葉全体に付着するように散布する。
- (3) 肥料切れして草勢が衰えると発病が助長されるので, 肥培管理を適切に行う。
- (4) 被害葉は伝染源となるので, 圃場周辺に野積み・放置せず, 速やかに処分する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年並), 発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 5月6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が100%と, ほぼ平年(80.0%)並の発生であるが, 被害度は14.6と, 平年(8.8)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が5月30日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並で, 日照時間は平年並か多く, 期間の前半は気温がかなり高くなり, 期間のはじめは少雨の状態が続く所があると予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し, 生育初期の被害を防止する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので, 絶対に圃場周辺に野積み・放置せず, 速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で, 発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が77.8%と, 平年(87.1%)並の発生であるが, 被害度は2.4と, 平年(5.6)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が5月30日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量はほぼ平年並で, 日照時間は平年並か多く, 期間の前半は気温がかなり高くなり, 期間のはじめは少雨の状態が続く所があると予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し, 生育初期の被害を防止する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので, 絶対に圃場周辺に野積み・放置せず, 速やかに処分する。

Ⅳ. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し, 周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは, 7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoso/>

○ 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。